

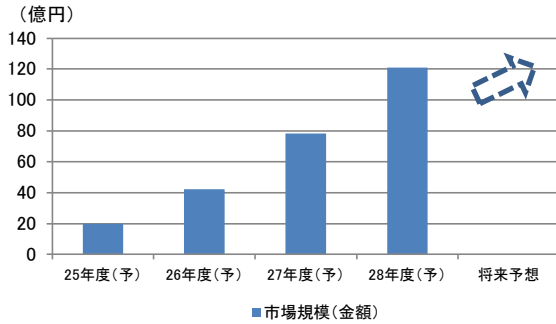
業界アウトライン

・ドローンや自動配送ロボットを活用した国内物流市場は黎明期にあり、現在、社会実装に移行すべく、技術開発・法整備・サービス／ビジネスモデルの構築が進められており、本格的な市場立ち上がりは2025年度頃と見込まれる。

注目市場

ドローン物流市場

ドローン物流市場 市場規模推移



※出典 矢野経済研究所

■市場環境

- ・2025年度のドローン物流市場規模は、20億円と予測される。
- ・ドローン物流の商用化が始まったのは2020年以降であるが、現時点でドローン物流サービスを定常的に展開している地域や事業者はまだ僅かである。
- ・同市場では、日用品や食料品の配送サービスが最も多く展開されており、次に医薬品の配送サービスが続き、その他、検体の輸送や重量物の搬送などにも活用されている事例がある。

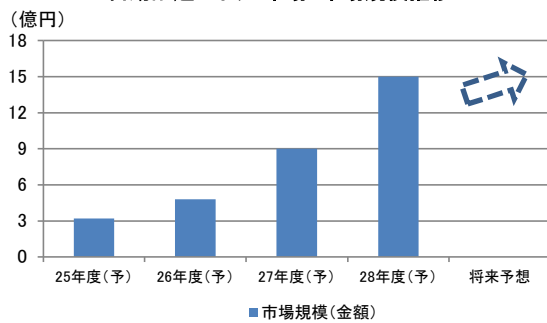
■業界動向／事業者動向

- ・ドローン物流は、主に社会課題の多い中山間地域や離島等で展開されている。地域の状況に合わせて全体の物流効率を考え、既存の輸配送手段と組み合わせて持続可能な物流網の構築を行うための手段の一つとして、ドローン物流の導入が今後も進んでいく見込みである。
- ・2023年は、過疎地域を中心にドローン物流の実証実験が進んだほか、これまで実証を重ねてきた地域で社会実装へ移るケースも複数見られた。2024年以降は、機体や制度面から有人地帯を飛行可能な体制が整うまで、2023年12月に新設された「レベル3.5」によるドローン物流の実装が進むとみられる。

注目市場

自動配送ロボット市場

自動配送ロボット市場 市場規模推移



※出典 矢野経済研究所

■市場環境

- ・2025年度の自動配送ロボットを活用した物流市場規模は、3億円と予測される。
- ・自動配送ロボットとは、自律走行を行う低速・小型の無人配送ロボット、及び中速中型の無人配送ロボットを指す。
- ・2023年4月に道路交通法の一部が改正され、公道を走行する低速・小型の自動配送ロボットによる配送サービスが制度上可能となった。

■業界動向／事業者動向

- ・低速・小型の自動配送ロボットは現在、これまで行ってきた実証実験や短期サービスをもとに、ユーザーニーズと合わせてビジネスモデルの構築が行われている段階である。都市部や住宅地を中心に、フードデリバリーサービス、医薬品の配送サービス、小売店のオンデマンド配送サービス等で実用化が検討されている。
- ・中速・中型の自動配送ロボットは、今後、法律の整備やルールが策定されるとともに、2030年度頃までに地方都市を中心に社会実装が進んでいくとみられる。